

2010（平成22）年度入学試験〔A日程〕 小論文問題の出題意図と採点基準

（出題意図）

「国立大学における男女共同参画を推進するために」（平成12年5月19日）から抜粋した文章と資料を読んで、そこから我が国の国立大学における男女共同参画の特徴を読み取り、問題点を簡潔に説明できるか、さらにその問題点をふまえて、どのような改善策があるか、自分なりの提言をできるだけ具体的にあげることができるか、を測ろうとした。

（採点基準）

問1（20点）

（1）資料の中から日本の特徴を2～3点にわたって、しっかり抽出できたか。

（2）その特徴を具体的に資料をふまえて、説明できているか。

（3）日頃から言われている日本社会における男女差別・意識の一般的な指摘だけでは得点が低く、大学における男女共同参画の特徴を具体的にあげている答案は得点が高い。

問2（30点）

（1）男女共同参画の問題点を解消するために、その問題点に即して、解決のための具体的提言が述べられているか。

（2）「意識の改善」「男優先社会の解消」といった一般的な提言だと得点は低く、教員の雇用・待遇にかかわっての具体的な提案、たとえば教員採用のさいに一定割合をかならず女性から採用するなどの措置（アファーマティヴ・アクションとよばれる）の提言等が具体的にあげられていると得点が高くなっている。

◆設問 2

「評価の基準」

筆者のいう「倫理学」「功利主義の立場」「カントの立場」を理解し、説明しているかだけではない。解答の構造が、①と②との論理的な繋がりを示しているか否かも、重要な評価対象である。

したがって、解答は、以下のかたちをとることが求められる。

筆者は、倫理学を_____のようなものとして考えている。

そのような観点からみれば、

_____というカントの立場は、_____という点で問題である。

_____という功利主義の立場は、_____という点で優れている。

例えば、カントの立場では、「自分一人の健全な楽しみ」と「他人の権利を侵害して追求する楽しみ」との区別がつかないから劣るということのみでは不十分である。

区別できないことが、なぜ倫理学として問題なのか、そして、そのことゆえにカントの立場は、功利主義の立場に劣る、という説明が求められる。区別ができることが、なぜ倫理学として優れているのか、そのことゆえに功利主義の立場は、カントの立場に勝る、という説明が求められる。

配点は、50点満点のうち、

「倫理学」の説明が20点

「功利主義の立場」「カントの立場」の説明が20点

①と②との論理的な繋がりが10点、である。

解答の筋道を例示すれば、以下のようになる。

筆者は、倫理学を「してよいこと・許されること」「して悪いこと・法律的・公共的に悪いこと」の違い、すなわち「許されるエゴイズムの限度」を明らかにするためのものであると考える。

カントの立場は、すべての行為を「善・理性的で道徳的・義務」「悪・感覚的で非道徳的・エゴイズム」に2分する。功利主義の立場は、快樂の追求（エゴイズム）が善（してよいこと）であることを出発点としている。

したがって、筆者の立場からすれば、エゴイズムそれ自体を悪とするカントの立場ではなく、功利主義の立場が、倫理学の基礎として適している。

文章から導き出されていない、自分の考えを述べたもの（例えば、「カントの立場は現実から乖離している」）は、減点の対象とした。